



発行所  
**飛驒市民新聞社**  
 発行人/古田千絵  
 岐阜県飛驒市古川町大野田159  
 TEL.(0577)73-7704

毎週土曜日発行  
 購読料/1部200円  
 1ヶ月700円  
 6ヶ月4000円  
 1年8000円

## 酒米の安全性を自主検査へ

### 渡辺酒造店が独自で測定、結果をHP公開へ

東京電力福島第一原発事故で大量の放射性物質が放出されたことにより、各地で放射性セシウムなどを原因とする放射能汚染が確認され、食の安全性への不安が叫ばれている。飛驒地域では、汚染稲むら問題を発端とした飛驒牛の消費低迷などもあり、厳しい消費者の反応に見舞われている。

安全・安心を求める顧客らの声が寄せられる中、古川町吉之町の渡辺酒造店(渡邊久郎社長)ではこのほど、独自に放射能測定器を導入した。同社で使用する酒米を検査し、その結果をホームページで公開する試みを始めるという。

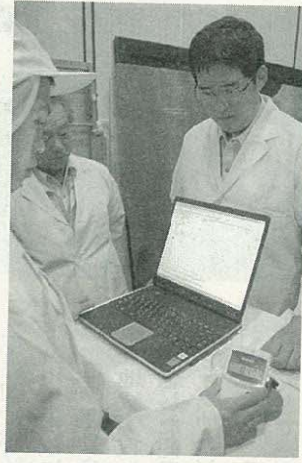
### 安全性を数値で証明

岐阜県産の米「コシヒカリ」「あきたこまち」「たかやまもち」については、県農政部が調査し、放射性セシウムは検出されなかったと発表されたが、同社が酒米としてJ.Aから購入する県産の「ひだほまれ」については調査自体が行われなかった。

関東圏の消費者が米の汚染に対して敏感になっていること、流通や販売業者から「原料は安全な米か」といった問い合わせがあったことなどを受

### 不安要素払拭を

今回導入したのは、環境調査会社「株式会社環境ラボ」(栃木県本社)が



18日には「環境ラボ」社員(写真右と奥)による従業員への講義や機器の説明が行われた

提案した放射能表面汚染計「RD-S180」で、「セシウム134」と「セシウム137」を合わせた放射能の強さを測定する簡易機器だという。

一定量の米を抜き取って放射能測定を行い、その値からバックグラウンド値(通常でも空気中や

地面、建物などから検出される値)を差し引いた数値により、安全性を判断するという。

安全性の目安は、国の暫定基準値である米一キログラム当たり五百ベクレルの半分、二百五十ベクレルに設定。結果などは随時パソコンに入力していく。安全性を確認した米から順次、仕込み作業へ回すことになる。

測定する担当者は田邊稔彦さん(25)。「お客様の安全が第一。簡易的な検

査でも、安心安全をお伝えできたら」と表情を引き締めていた。

「消費者の視点と、行政やJ.Aの視点が乖離(かいり)している面がある。酒蔵として、安全安心を証明できる仕組みはメーカーにとって絶対に必要。お客様の不安要素を払拭できた」と渡邊久憲専務。

今後、一カ月に一回のペースで「環境ラボ」社内の精密な調査も行いながら、検査結果を公開していくという。